

(第3種郵便物認可)

県環境アドバイザーからの提言

今として 未来

▶▶ 13

地球の温暖化が叫ばれているなかで、CO₂の排出量は一九九〇年をゼロとした時、二〇一〇年の家庭排出量は20%の増加となるとされている。

県内の消費者は、アンケート調査では、省エネルギー(家電製品、自動車など)や環境エコマーク、グリーンマークなど)に対して良いことをしようとする意欲は非常に高い結果が出ている。しかし、個人の家庭においては、意識は高いものの、自分の使用量が他の人に比べて多いのか、少ないのかという相対評

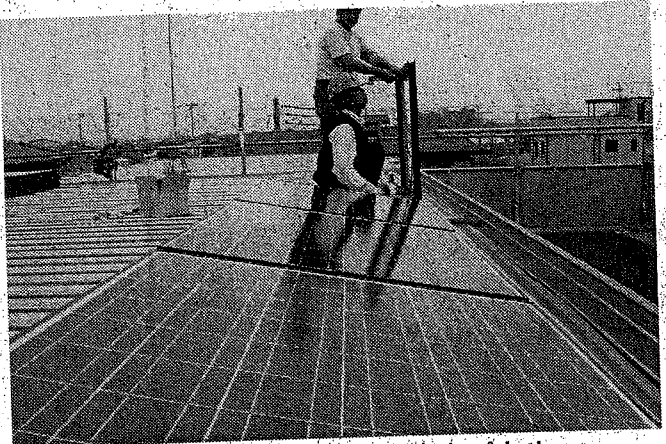
太陽光発電でCO₂削減

価ができないという問題がある。

そこで紹介したいのが「県民エコD.O.」。県が、県民一人ひとりに「家庭でできるCO₂削減行動」として推奨している運動。電気や水道、ごみの量を週単位で指定されたシートに記入してチェックする方法で、現状や推移が簡単に確認できる。個人やグループでこの



「県民エコD.O.」運動



自宅屋根に設置した太陽光パネル

運動に参加すれば、上記の目標も達成可能になると思う。

【よしえ・とみお】
伊勢崎市合井町。県環境アドバイザー幹事。

わが家では、日ごろからごみの減量やリサイクルに心掛けていたが、それも限界に達した。そこで化石燃料を使用しないために、オール電化住宅にすることを決めた。
五・一キロワットの太陽光発電システムを設置

し、キッチンをガスコンロからIHコンロに、給湯システムも石油からエコキュートに換えた。その結果、月に百三十キロの節約が可能になった。

太陽光発電は、一度設置すればその電気は、風呂の給湯、キッチンの熱源などのもるの使い道がある。さらに、現在は国の外郭団体であるエネルギー財団からの補助を受けられ、昼間に太陽光で発電した電力を東京電力が購入する制度もある。ぜひ、多くの人が導入することを望む。

(吉江 富雄)